

インターネットを利用した 公共施設に関するアンケート調査結果

1 調査目的

公共施設はたくさんの市民に利用されていますが、特定の市民が繰り返し利用する場合も多く、公共施設をほとんど、又はまったく利用しないという市民も多いものと思われます。そこで、使うものと使わないものとの意識の違いの把握や、税負担の公平性検討のための基礎資料を収集するために調査を行ったものです。

なお、利用者アンケートでは、公共施設の主な利用者となっている中高年齢層の回答が多くなったことから、20歳代から40歳代を中心にデータを収集することができるインターネットによる調査方法を採用することとしたものです。

2 調査期間 平成21年6月19日（金）～6月25日（木）

インターネット上での回答受付時間

開始 平成21年6月23日（火） 午後6時11分

終了 平成21年6月25日（木） 午前8時

3 調査対象

受託者が行うインターネットによる意識調査への協力に登録をしている会員の中から、秦野市在住者を抽出し、各年代と性別に応じて、次表の各欄に掲げる数を標準数（合計 300 サンプル）として調査を依頼したものです。

なお、インターネット上で調査を行うという特性から、50歳代以上の調査協力登録者数が少ないため、50歳代以上の回収サンプル数は、調査受託会社と協議のうえ減らしたものであり、意図的に高齢者層の意見を排除しようとするものではありません。

年代 性別	20代	30代	40代	50代以上	計
男	40	40	40	30	150
女	40	40	40	30	150
合計	80	80	80	60	300

4 回答者の属性

属性1 年齢及び性別						
選択肢	男		女		計	
	回答者数	割合 (実人口割合)	回答者数	割合 (実人口割合)	回答者数	割合 (実人口割合)
① 20歳代	42	13.9% (11.3%)	42	13.9% (7.9%)	84	27.8% (19.2%)
② 30歳代	42	13.9% (9.1%)	42	13.9% (8.0%)	84	27.8% (17.1%)
③ 40歳代	42	13.9% (7.6%)	42	13.9% (7.0%)	84	27.8% (14.6%)
④ 50歳代以上	31	10.3% (23.6%)	19	6.3% (25.6%)	50	16.6% (49.2%)
合計	157	52.0% (51.5%)	145	48.0% (48.5%)	302	100.0% (100.0%)

女性 48.0%
男性 52.0%

20代 27.8%
30代 27.8%
40代 27.8%
50代以上 16.6%

※ 実人口割合は、平成20年1月1日現在の20歳以上の実人口から算定したものです。

男女の比は、実人口割合とほぼ同じですが、インターネットを用いた調査であるという特性から、20歳代から40歳代では、回答者の割合が実人口割合を上回り、50歳代以上の回答者の割合は、実人口割合を大きく下回っています。

属性2 未既婚		
選択肢	回答者数	割合
① 未婚	107	35.4%
② 既婚	195	64.6%
合計	302	100.0%

未婚 35.4%
既婚 64.6%

属性3 こどもの有無		
選択肢	回答者数	割合
① 有	148	49.0%
② 無	154	51.0%
合計	302	100.0%

回答者のおよそ3分の2は、既婚者ですが、こどもの有無については、ほぼ同程度の割合となっています。

5 設問及び回答内容

問1 あなたが居住している地区を教えてください。		
回答肢	回答者数	割合 (実人口割合)
① 本町地区	37	12.3% (12.7%)
② 南地区	52	17.2% (18.6%)
③ 東地区	26	8.6% (9.7%)
④ 北地区	18	6.0% (8.2%)
⑤ 大根・鶴巻地区	86	28.5% (25.8%)
⑥ 西地区	70	23.2% (23.4%)
⑦ 上地区	2	0.7% (1.5%)
⑧ わからない	11	3.6% (-)
合計	302	100.0% (100.0%)

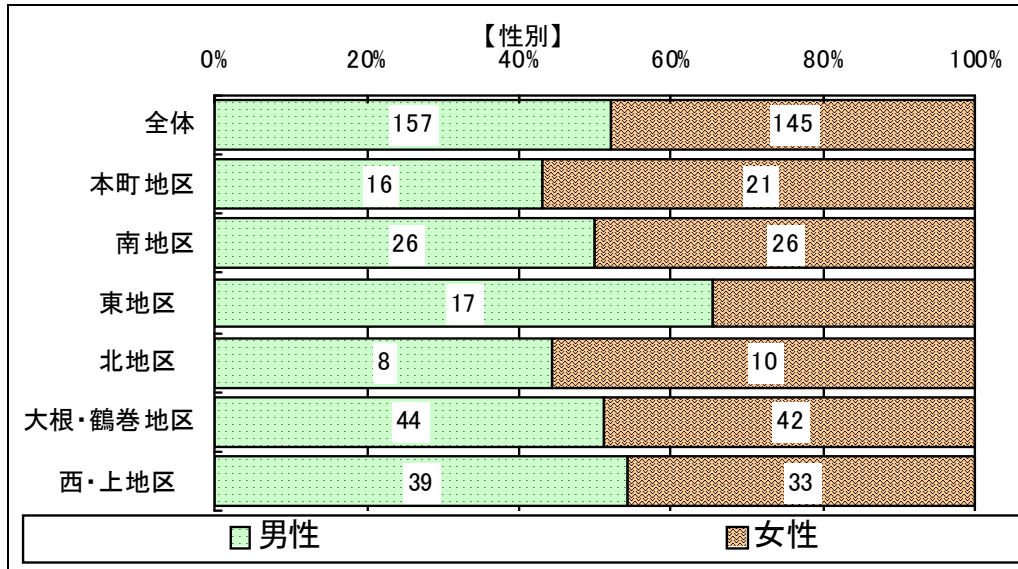
※ 実人口割合は、平成20年10月1日現在の実人口(全年齢)から算定したものです。

実人口割合との比較では、大根・鶴巻地区で回答者の割合が2.7ポイント上回り、他地区では、実人口割合よりも回答者の割合がやや低くなっています。

また、この設問について、性別及び年齢層別にクロス集計すると（上地区は、回答者が少ないため、隣接する西地区に含めます。以下クロス集計を行う際において同じです。）、次図のとおりとなります。

全体の回答者より男性の割合が多いのが目立つのは、東、西・上地区、女性の割合が多いのが目立つのは、本町、北地区となっています。

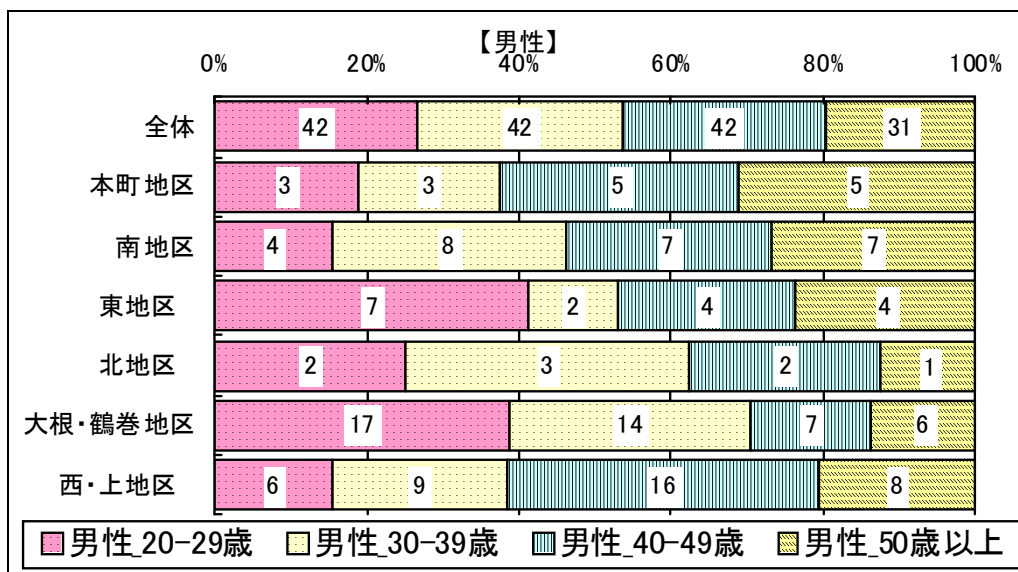
【問 1 性別】



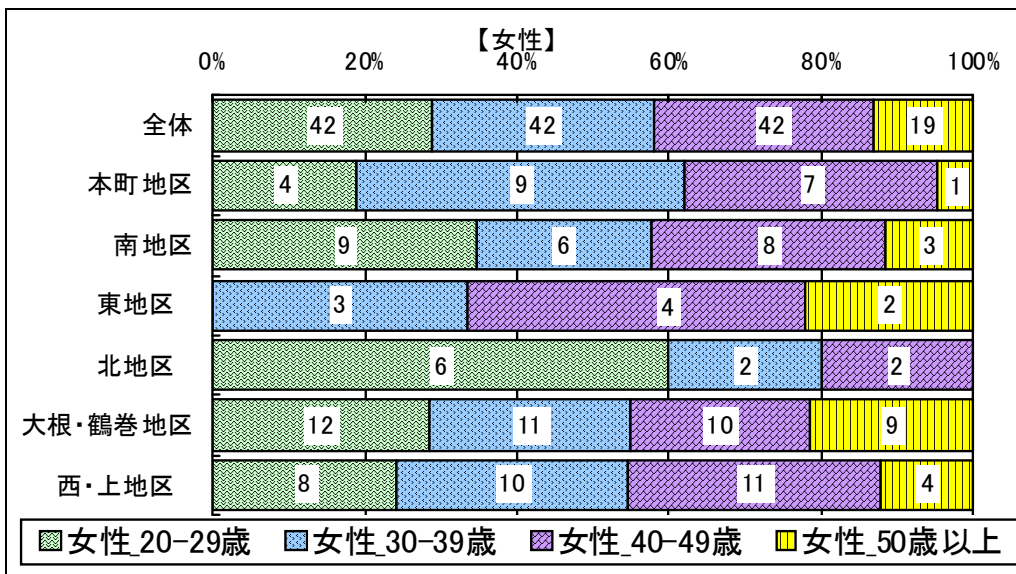
また、男女別に年齢層の構成を見ると、まず男性では、全体より割合が大きくなっているのが目立つのは、20歳代は東、大根・鶴巻地区、30歳代は南、北地区、40歳代は西・上地区、50歳代以上は本町、南地区となっています。

続いて女性では、全体より割合が大きくなっているのが目立つのは、20歳代は北地区、30歳代は本町地区、40歳代は東地区、50歳代以上は東、大根・鶴巻地区となっています。

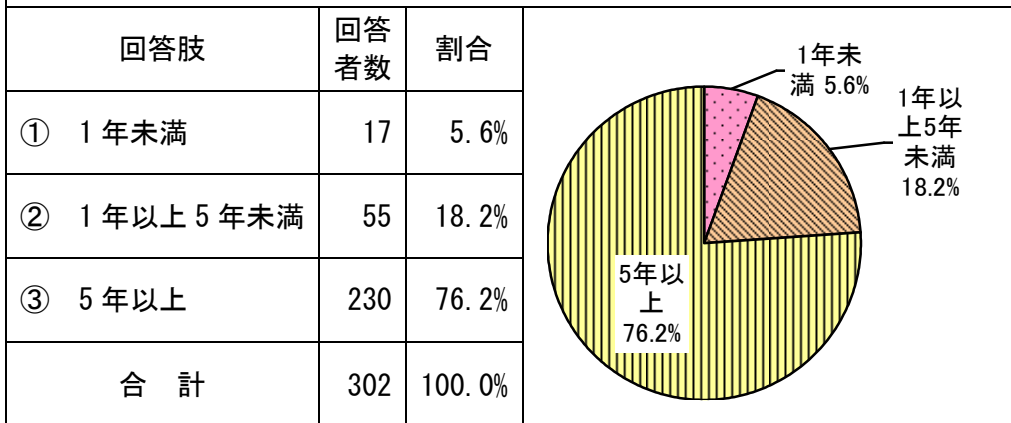
【問 1 男性年齢別】



【問1 女性年齢別】



問2 あなたは、秦野市にどのくらいの期間居住していますか。

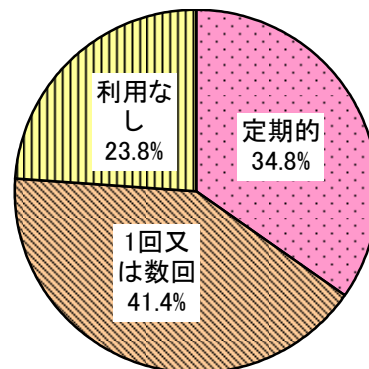


およそ4分の3強の回答者が、公共施設も含めた市政に対して、ある程度以上の知識を有しているものと推測できる5年以上の居住者です。



問3 あなたは、過去1年間に秦野市立の公共施設を利用しましたか。
 (この調査でいう「公共施設」とは、総合体育館、文化会館、図書館、公民館のように、不特定の市民が利用することができる公共の施設のことをいいます。ただし、公園のように職員が常駐していない施設は除きます。)

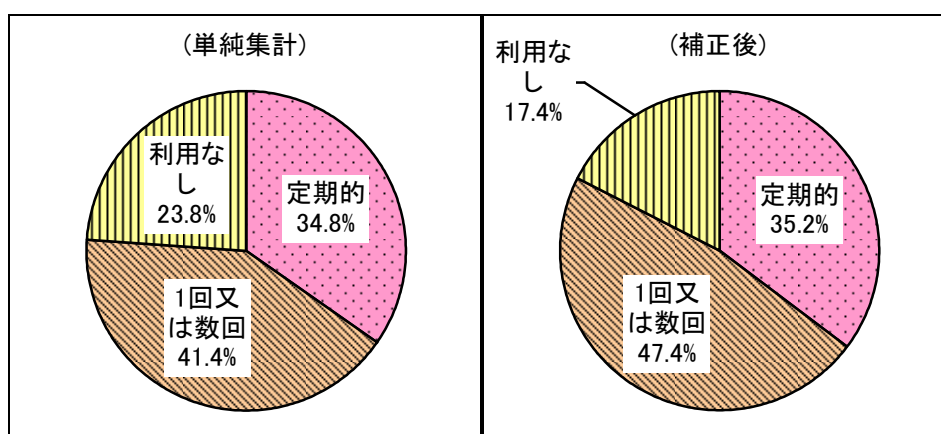
回答肢	回答者数	割合
① 定期的にご利用した。	105	34.8%
② 1回又は数回、ご利用した。	125	41.4%
③ 利用しなかった。	72	23.8%
合計	302	100.0%



定期的にご利用した回答者が3分の1強を占め、1回又は数回ご利用した回答者を加えると、4分の3強の回答者が過去1年間に、公共施設を利用しています。

なお、先に実施した利用者アンケートでは、高年齢層の女性が多かったのに対し、本調査は、インターネットを用いた調査であることから、高年齢層、特に女性の回答が少なく、実態との乖離が懸念されます。そこで、実際の人口に占める性別と年代の割合に応じて回答者数に補正をかけた結果、「定期的にご利用した」とする者は35.2パーセントとなり、ほとんど変化はありませんが、「1回又は数回ご利用した」とする者は、47.4パーセントとなり、両者の合計は、8割を超える結果となりました。

【問3 補正結果】

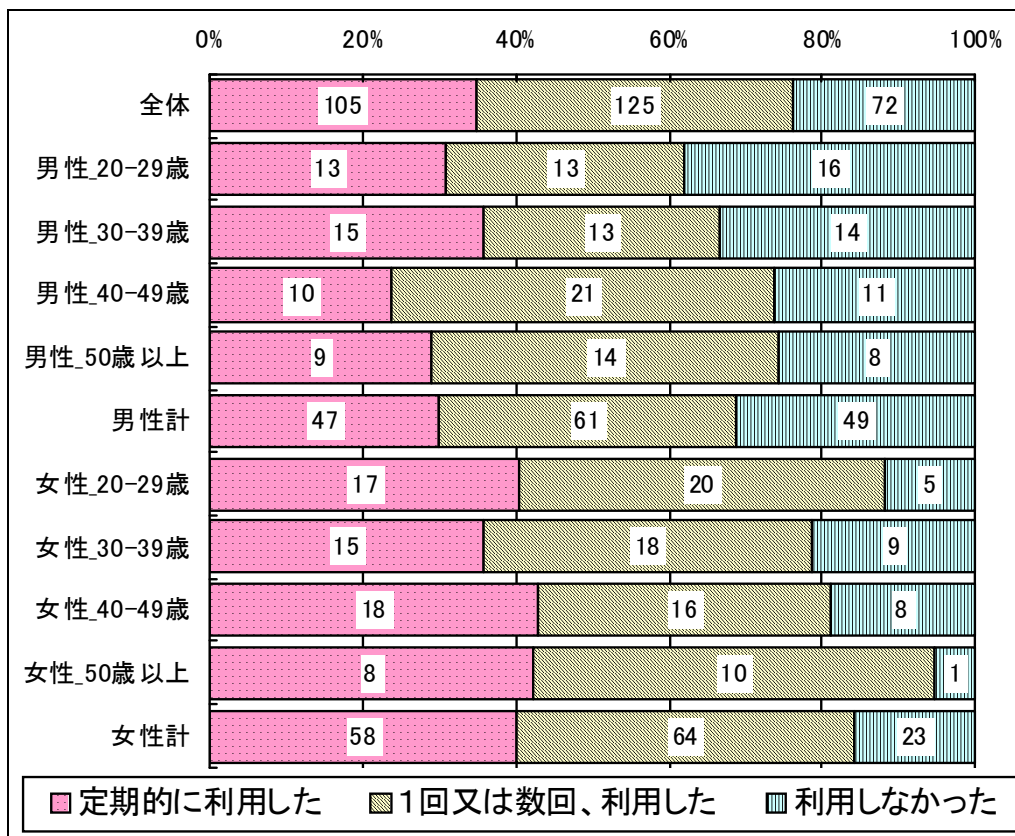


また、この設問について、性別及び年齢層別、未婚、子供の有無並びに回答者が居住する地区別にクロス集計すると、次図のとおりとなります。

男女別では、利用しなかったという者の割合は、男性では30パーセントを超えているのに対し、女性ではその半分程度になっています。

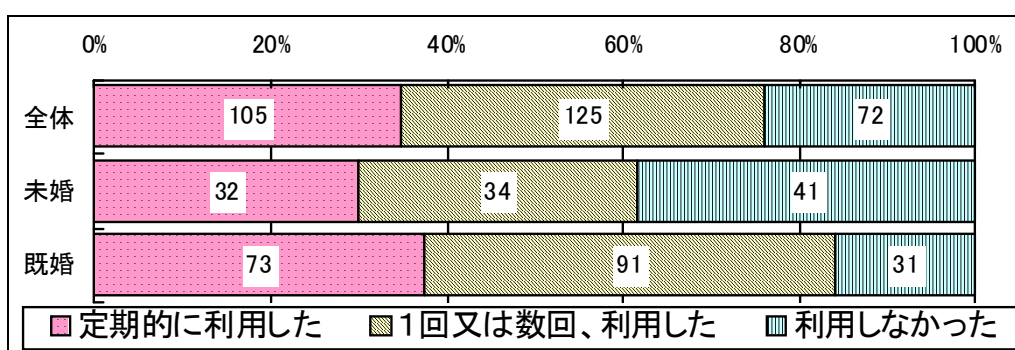
年齢層別では、男性は、年齢層が下がるほど利用していない者の割合が増えていますが、女性は30歳代が利用していない者の割合が最も高く、50歳代以上が最も少なくなっています。また、「定期的にご利用した」と回答した割合が最も高いのは、40歳代の女性であり、「利用しなかった」と回答した割合が最も高いのは、20歳代の男性となりました。

【問3 性別・年代別】



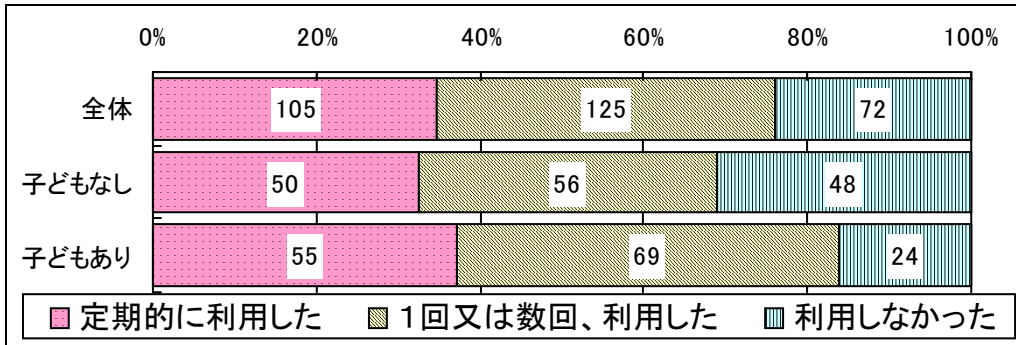
未婚の別では、「定期的にご利用した」、「1回又は数回ご利用した」と回答した者の割合は、ともに既婚者のほうが高くなり、公共施設を活発に利用していることがわかります。

【問3 未婚別】



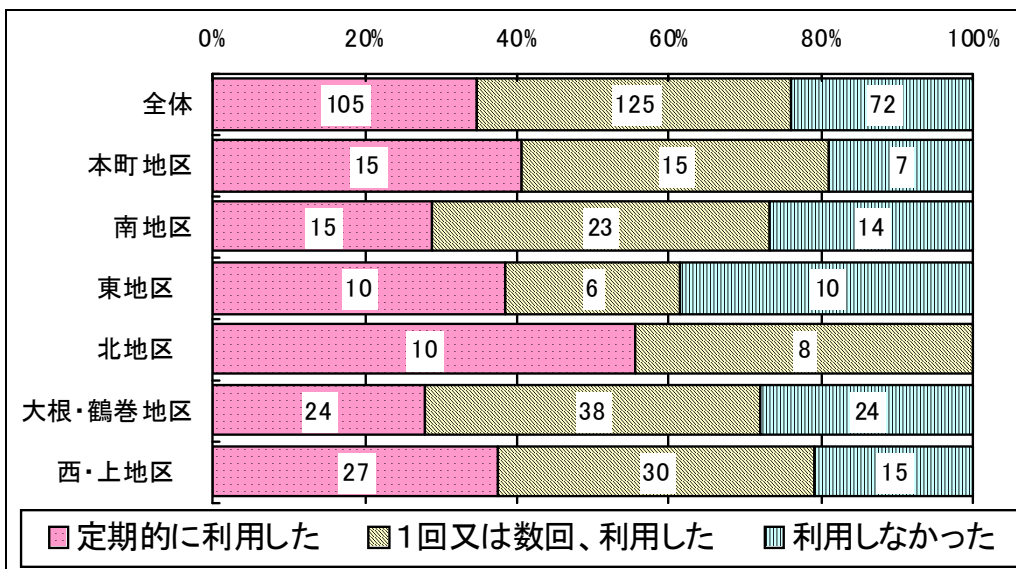
子供の有無別では、「定期的にご利用した」、「1回又は数回ご利用した」と回答した者の割合は、ともに子どものいる回答者のほうが高くなり、公共施設を活発に利用していることがわかります。

【問3 子供の有無別】

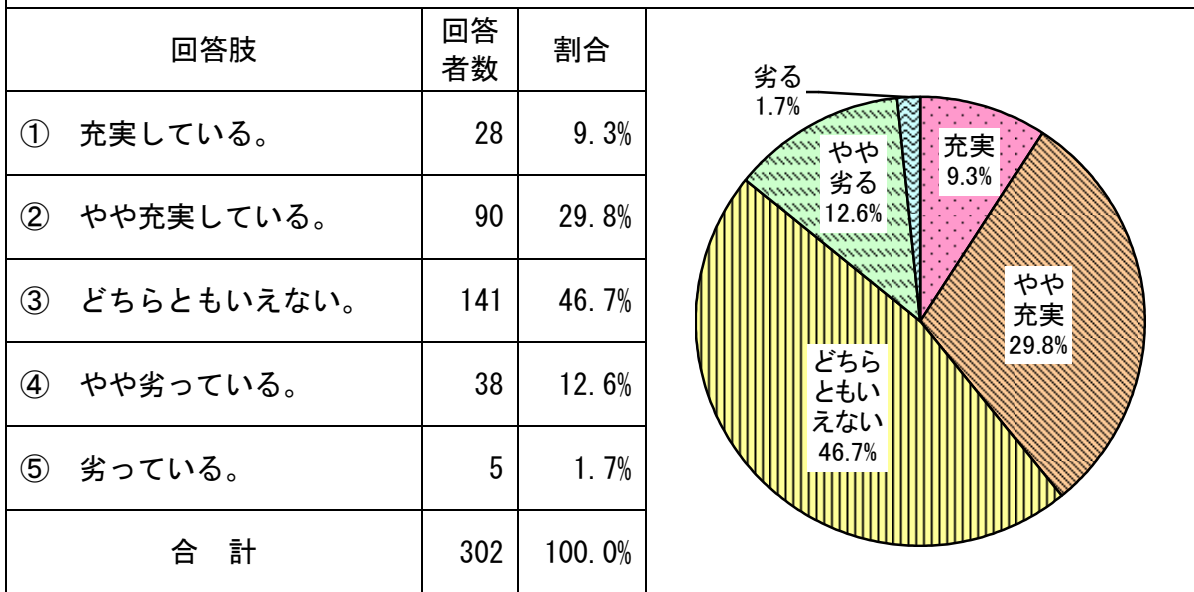


地区別では、「定期的にご利用した」と回答した者の割合は、北地区で最も高くなり、大根・鶴巻地区で最も低くなりました。また、「利用しなかった」と回答した者の割合は、東地区で最も高くなり、北地区では、回答した者はありませんでした。

【問3 地区別】



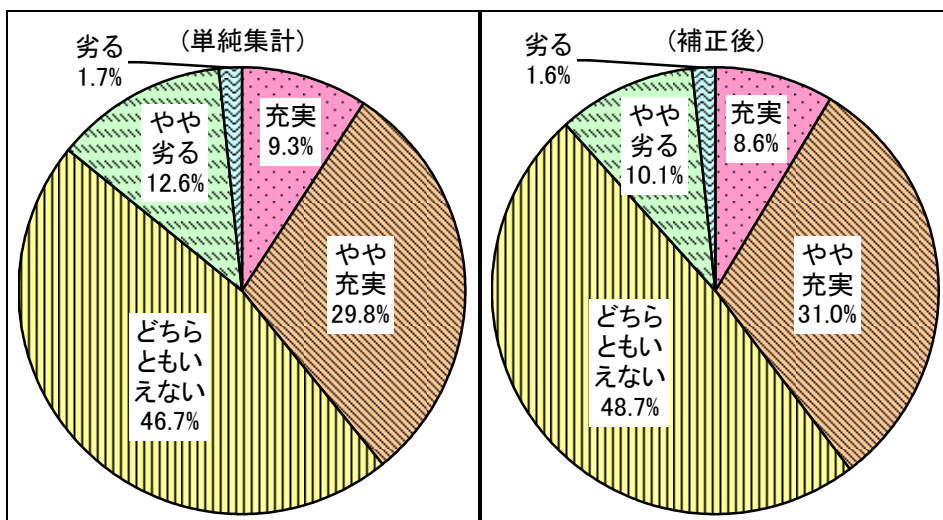
問4 秦野市の公共施設の量やサービスの内容は、他の市や町に比べて充実していると思いますか。



「充実している」と「やや充実している」を合わせると、4割弱の回答者が充実していると答え、「やや劣っている」、「劣っている」と回答した者の割合を25ポイント弱上回っています。

前述のとおり、回答者の性別・年代別の割合と実際の市民の構成割合が異なることから、実際の人口に占める性別と年代の割合に応じて回答者数に補正をかけた結果、あまり大きな変化は見られませんが、「やや充実している」とした者の割合が1.2ポイント、「どちらともいえない」とした者の割合が2.0ポイント増え、「やや劣る」とした者の割合は、2.5ポイント減りました。

【問4 補正結果】



また、この設問について、性別及び年齢層別、未既婚、子供の有無並びに回答者

の居住する地区別にクロス集計すると、次図のとおりとなります。

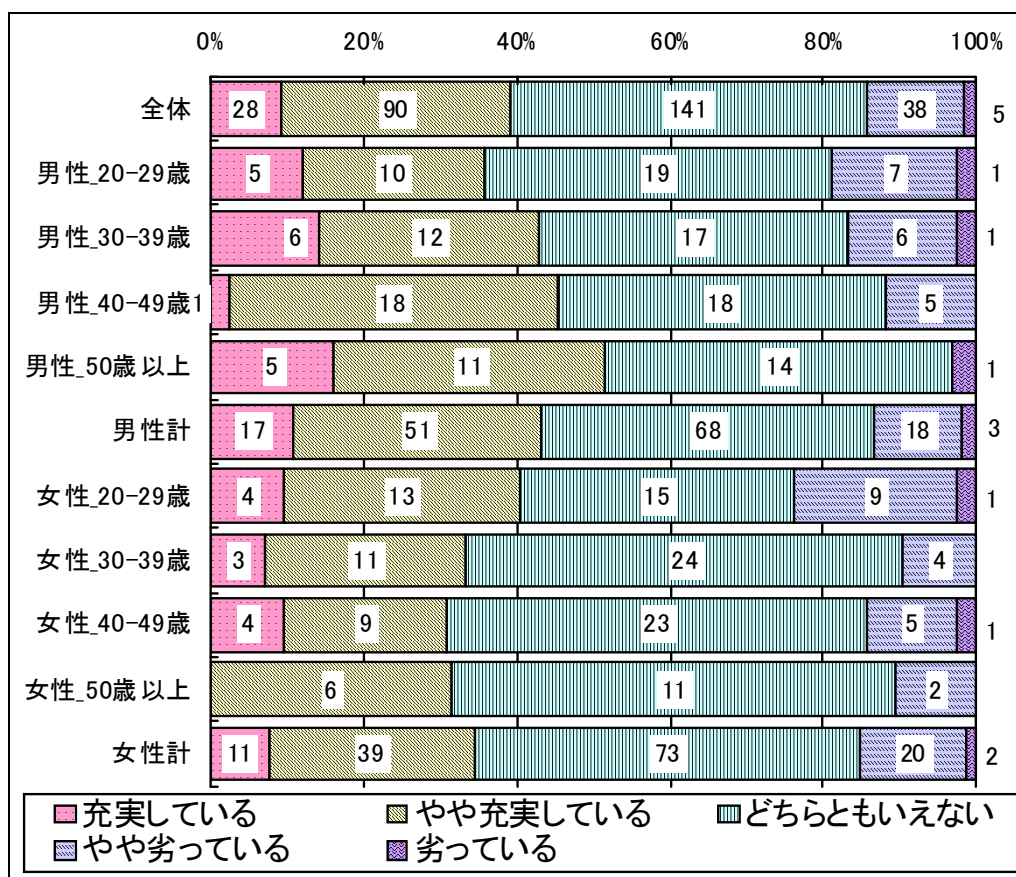
男女別では、「充実している」及び「やや充実している」と答えた者の割合は、男性のほうが高くなっています。

また、年齢層別では、「充実している」及び「やや充実している」とした者の割合が最も高くなったのは、50歳以上の男性であり、最も低くなったのは、50歳以上の女性でした。これに対し、「劣っている」及び「やや劣っている」とした者の割合が最も高くなったのは、20歳の女性であり、最も低くなったのは、50歳以上の男性でした。

男女ともに、年齢層が若くなるほど「劣っている」及び「やや劣っている」とする者の割合が高くなる傾向がありますが、女性では、30歳代で「劣っている」とする者の割合が低くなり、「どちらともいえない」とする割合が最も高くなります。

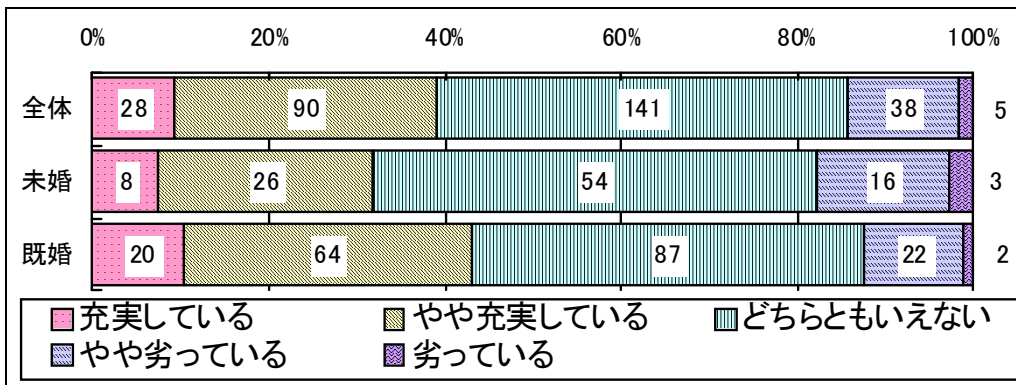
前述のとおり、30歳の女性は公共施設を利用しなかった者の割合が高く、このことと相関がありそうです。

【問4 性別・年代別】



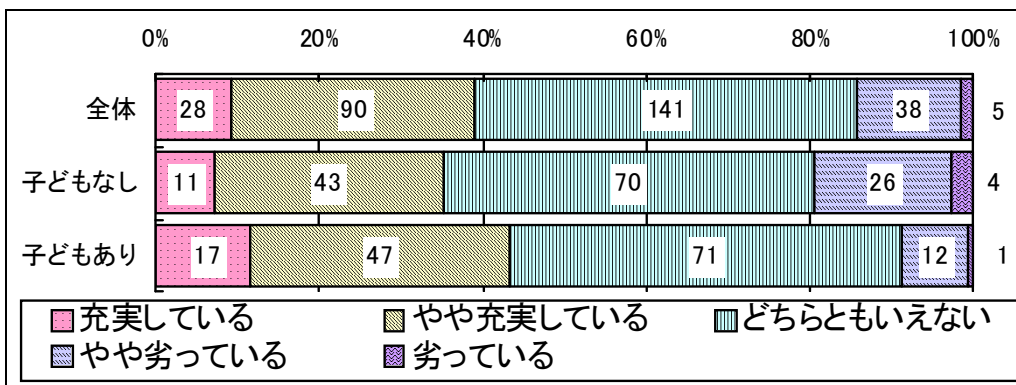
未既婚の別では、「充実している」、「やや充実している」と回答した者の割合は、既婚者のほうが高くなり、満足度が高いことがわかります。

【問 4 未既婚別】



子供の有無別では、「充実している」、「やや充実している」と回答した者の割合は、子どものいる回答者のほうが高くなり、満足度が高いことがわかります。

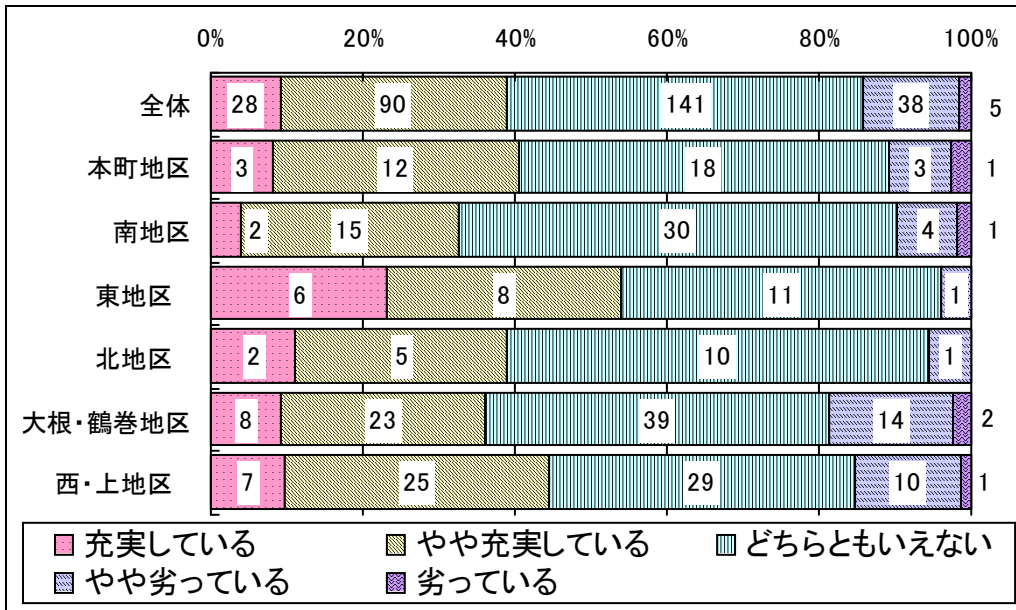
【問 4 子供の有無別】



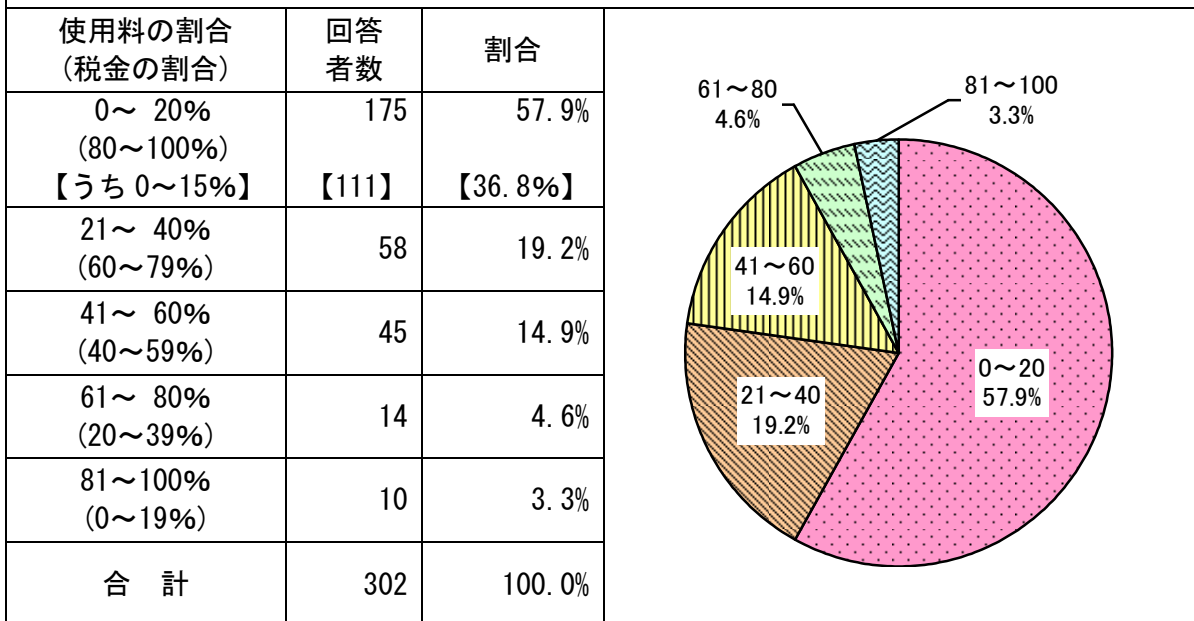
地区別では、「充実している」及び「やや充実している」とした者の割合が最も高くなったのは、東地区であり、「劣っている」及び「やや劣っている」とした者の割合が最も高くなったのは、大根・鶴巻地区となりました。



【問4 地区別】



問5 有料の公共施設の管理運営経費は、税金と利用者が支払う使用料で賅っています。平成19年度に使用料で賅われたのは、管理運営経費の15%程度であり、残りの85%は、税金で賅われていますが、あなたが適切だと思う使用料と税金の負担割合を記入してください(合計が100になるように整数で記入してください。)



使用料の割合を0から20パーセントの範囲で答えた回答者が最も多く、全体の6割弱を占めています。なお、実質使用料の値下げとなる現在の使用料の負担割合以下の割合を適正と回答をした者は、36.8パーセントでした。

また、適正だと思う利用者の負担割合は、全回答者の平均値で、現在の利用者負担割合(約15パーセント)の2倍弱に当たる28.2パーセントとなっています。

【問5 平均値等】

	平均値	標準偏差	最小値	最大値
使用料	28.2%	21.0	0	99
税金	71.8%	21.0	1	100

この設問について、性別及び年齢層別にクロス集計し、平均値を表すと、次表のとおりとなります。

男性では、使用料の負担割合は、30歳代で最も高く、40歳代で最も低くなり、男女の年齢層別では、この二つの値が最高値と最低値となります。

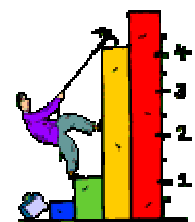
女性では、最も高くなるのは30歳代、最も低くなるのは50歳代以上となり、男女を合計すると、年齢層が若くなるにつれ、使用料の負担割合が高くなる傾向があります。

【問5 性別・年代別】

性別等 年代	男		女		合計	
	使用料	税金	使用料	税金	使用料	税金
① 20歳代	29.4%	70.6%	26.7%	73.3%	28.1%	71.9%
② 30歳代	32.9%	67.1%	26.8%	73.2%	29.9%	70.1%
③ 40歳代	24.9%	75.1%	30.8%	69.2%	27.9%	72.1%
④ 50歳代以上	26.0%	74.0%	27.1%	72.9%	26.4%	73.6%
合計	28.5%	71.5%	28.0%	72.0%	28.2%	71.8%

さらに、過去1年間の公共施設の利用頻度別にクロス集計し、平均値を表すと、次表のとおりとなります。

使用料の負担割合が最も低くなったのは、「1回、又は数回利用した」という回答者のグループであり、全体を3.3ポイント下回っています。これに対して、最も高くなったのは、「利用しなかった」という回答者のグループであり、全体を6.1ポイント上回りましたが、両者の間には、10ポイント近い差がつく結果となっています。



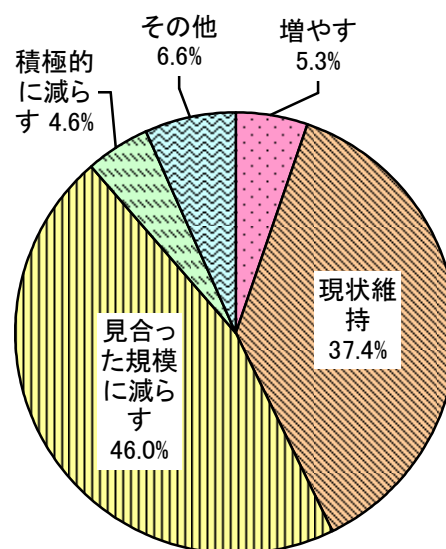
【問5 利用頻度別】

利用頻度	使用料	税金
① 定期的に利用した。	28.0%	72.0%
② 1回、又は数回利用した。	24.9%	75.1%
③ 利用しなかった。	34.3%	65.7%
全体	28.2%	71.8%

問6 今ある公共施設は、秦野市の人口が増加するのに合わせて建設してきましたが、今後、少子高齢化に伴い人口と税収が減少していけば、すべての公共施設を維持することが難しくなることも考えられます。

公共施設が減ることに対するあなたの考えに最も近いものを一つ選んでください。

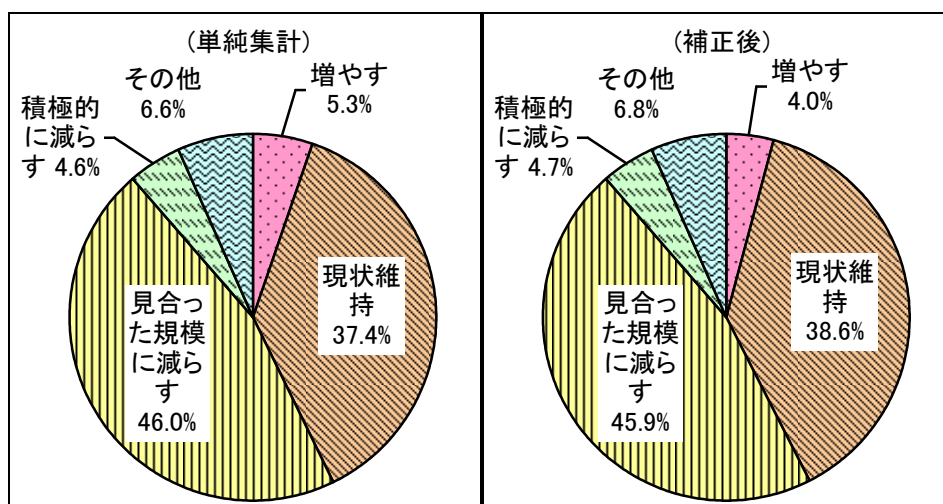
回答肢	回答者数	割合
① 公共施設は足りないと思うので、減らすよりも増やすことを考えるべきである。	16	5.3%
② 今あるすべての公共施設は必要なものなので、現状維持を優先的に考えるべきである。	113	37.4%
③ 公共施設の必要性を見直し、人口や税収に見合った数まで減らすべきである。	139	46.0%
④ 今ある公共施設には、必要性の低い施設が多いと思うので、人口や税収に合わせることなく、積極的に減らすべきである。	14	4.6%
⑤ その他	20	6.6%
合計	302	100.0%



「人口や税収の規模に見合った数まで減らすべき」とした回答者が最も多く、全体の半数弱を占めています。また、「現状維持」を求める回答者も多く、全体の4割弱を占めました。

性別及び年代別の実人口割合に応じて補正した結果は、次図のとおりです。両者の間には、目立った差は現れませんでした。

【問 6 補正結果】

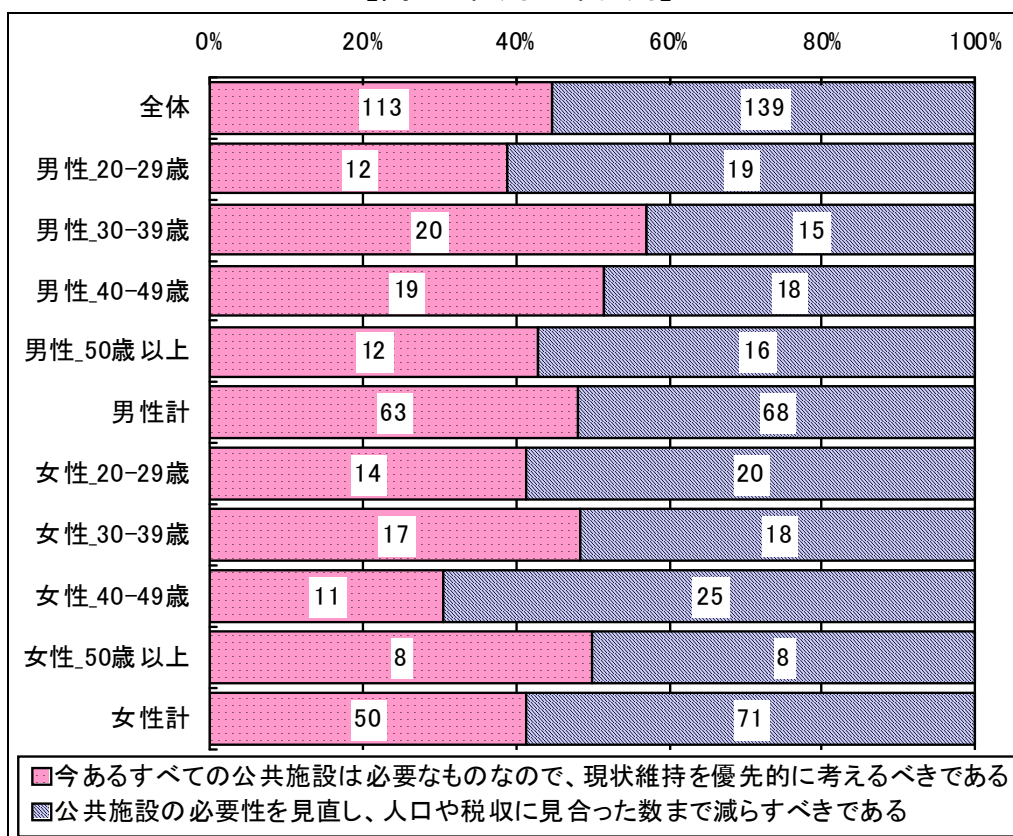


この設問のうち、「現状維持」又は「見合った数まで減らすべき」と答えた回答者について、性別及び年齢層別、未既婚、子供の有無並びに居住している地区別にクロス集計すると、次図のとおりとなります。

男女別では、女性は、「減らすべき」とする回答が多いのに対し、男性では、「減らすべき」がやや多いものの、「現状維持」とほぼ同数となっています。

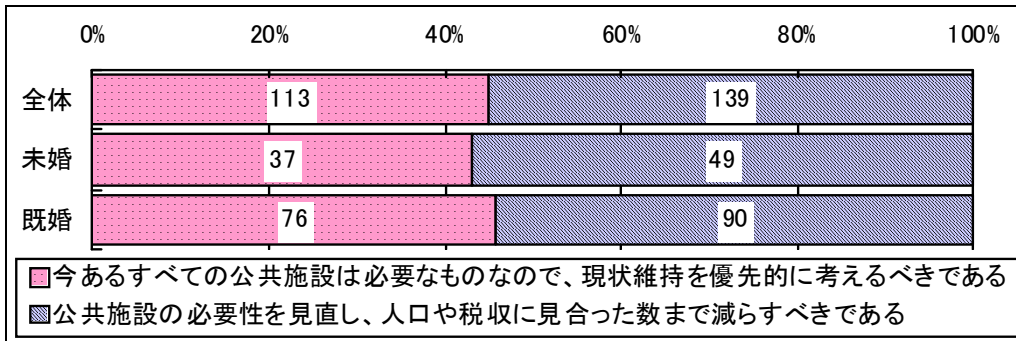
年齢層別では、目立った傾向は現れませんが、男性は、「減らすべき」とする回答が20歳代で最も多くなり、女性は40歳代で多くなっています。

【問 6 性別・年代別】

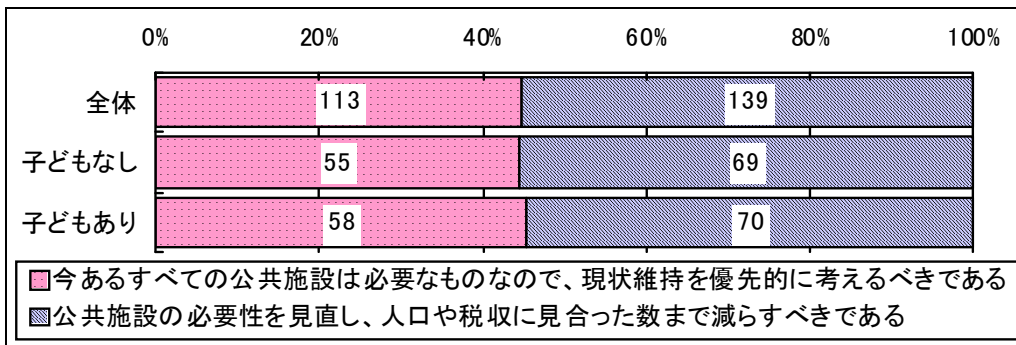


また、未既婚者の別及び子供の有無別では、両者の間に目立った差は現れていません。

【問 6 未既婚別】

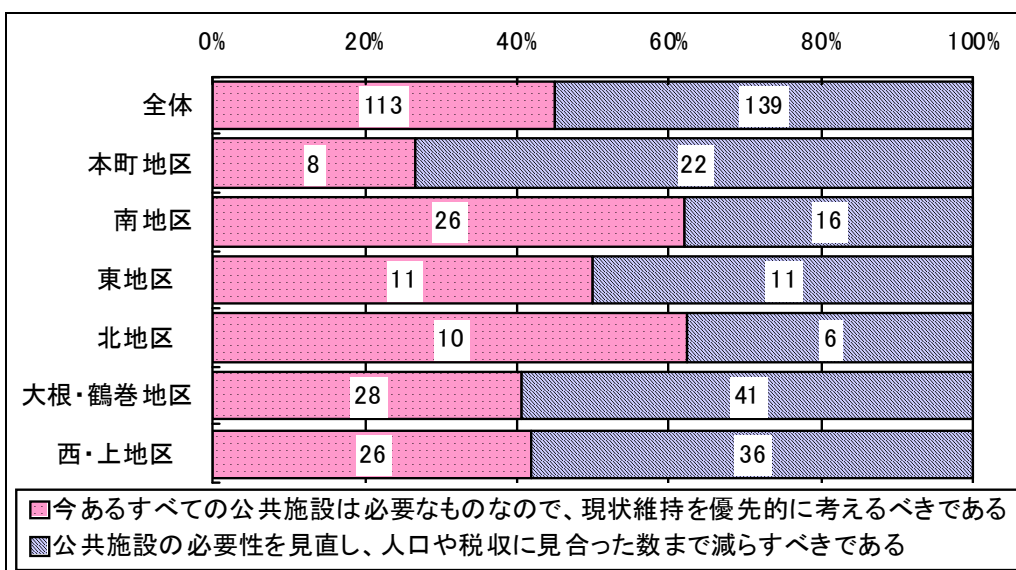


【問 6 子供の有無別】



地区別では、「現状維持」を求める回答者の割合が最も多かったのは、北地区であり、「減らすべき」とする回答者が最も多かったのは、本町地区となりました。

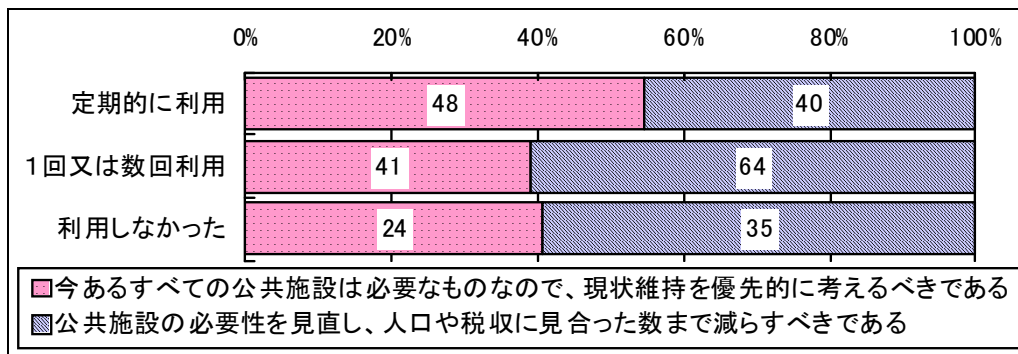
【問 6 地区別】



さらに、「現状維持」又は「見合った数まで減らすべき」と答えた回答者について、過去1年間の公共施設の利用頻度別にクロス集計すると、次図のとおりとなります。

「定期的に利用した」と回答したグループで、「現状維持を優先すべき」とする割合が5割を超えているのに対し、「1回、又は数回利用した」及び「利用しなかった」と回答したグループでは、「現状維持を優先すべき」という回答は、どちらも4割程度となっています。

【問6 利用頻度別】



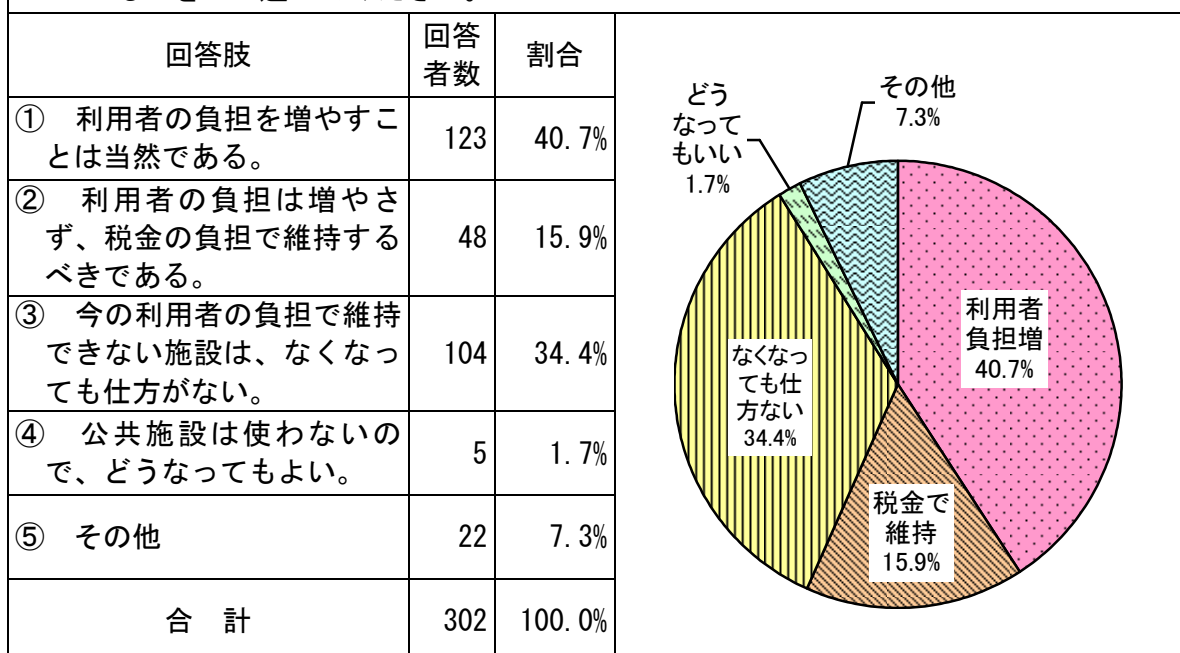
なお、その他の回答肢には、自由意見欄を設けましたが、20件の意見の記述がありました。意見の内容等は次のとおりです。

意見内容	性別	年齢
利用率の少ない施設は廃止を検討すべきである	男性	30
東地区に何かアミューズメントパークを誘致して下さい	女性	44
高齢者の増加、幼児児童の過疎化にあわせて効率的に使える施設を最低限の投資で増減すべきである	女性	40
3に近いが必要性を見直した結果、どうしても必要な施設であることが明らかな施設は人口や税収に見合わなくても維持すべきである。	女性	64
どれだけの施設があるのか解らないので、答えようがありません。	女性	42
高齢者のための施設に移行していけばいいと思います	女性	50
実体に併せた公共施設を調査して増やすべきである。	男性	70
高齢者向け運動サービスと施設は充実(生きがいと、健康保険費削減)	女性	42
新たに必要なもの、不要なものを市民の意見を取り入れ総合的に再度見直す必要があるのでは	男性	49
施設数は現状のままでも、使用料等を見直したほうがいいと思います	女性	35

意見内容	性別	年齢
市民のニーズにあった公共施設整備は市の特色となり人口流入につながる(というつもりで考えて欲しい)	男性	43
フィットネスジムでのプログラムを充実させてほしい	女性	39
効果	男性	20
必要なものも何故存在しているのか不明なものもある。様々な住民にニーズに対応できる施設を厳選して減らすものは減らす、増やすものは増やす、というふうにしてほしい	女性	30
市民の利用頻度や運営費などデータや分析に基づいたアナウンスを市民に公開し、必要不必要、費用対効果など市民と共に十分に議論すべき	男性	36
もっと積極的に公共施設を使ってもらえば良い	女性	33
必要性の高いものは増やし、利用が少ない施設は減らすべき。	女性	26
一概に増減を決めるのではなく、住民にきちんと意見を聞いて、必要なら増やす。不要なら減らす。そして何がどのように必要なのか、未来を見通して決定する・	女性	28
単純に増減を謳うのではなく、過去の使用実績と今後の見通しをきちんとしたうえで、適切な対応をとるべき	女性	27
人口の構成も変化していくと思うのでそれにあった構成にする	男性	26

問7 税収が減る中で公共施設を維持するためには、経営努力を行うことはもちろんのことですが、今まで無料であった施設を有料としたり、大規模な修繕や建替えのための費用を使用料に上乗せしなければならなくなることも考えられます。

このことについて、あなたは、どのように思われますか。あなたの考えに最も近いものを一つ選んでください。

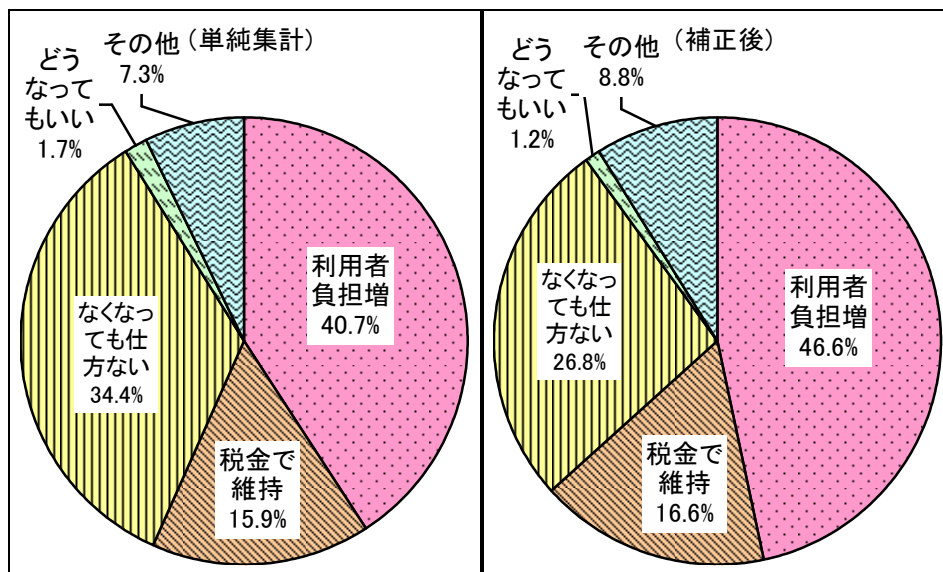


「利用者の負担を増やすことは当然」とする回答が最も多く、全体の約4割を占めています。次いで、「今の利用者の負担で維持できない施設はなくなっても仕方がない」とする回答がおよそ3分の1を占めています。

性別及び年代別の実人口割合に応じて補正した結果は、次図のとおりです。

「利用者の負担を増やすことは当然」とする者の割合が5.9ポイント増え、逆に「今の利用者の負担で維持できない施設はなくなっても仕方がない」とする者の割合が7.6ポイント減っています。

【問7 補正結果】



同様の質問は、利用者アンケートにおいても行いましたが、回答者の割合を比較すると次表のとおりとなります。

【両調査の比較】

インターネット調査		利用者アンケート	
回答肢	割合	回答肢	割合
① 利用者の負担を増やすことは当然である。	40.7%	① 施設を維持するためには、利用者の負担がある程度増えることは仕方がない	47.2%
② 利用者の負担は増やさず、税金の負担で維持するべきである。	15.9%	② 利用者の負担が増えることには反対であり、税金の負担で施設を維持できるようにしてほしい	34.3%
③ 今の利用者の負担で維持できない施設は、なくなっても仕方がない。	34.4%	③ 利用者の負担が増えるのはいやなので、施設がなくなっても仕方がない	1.9%

どちらのアンケートでも、利用者の負担を増やすことを容認する回答者の割合が

最も高くなりましたが、「税金の負担で維持」とする回答者の割合は、利用者アンケートで高くなり、インターネット調査の回答者のおよそ2倍以上となります。

また、「施設がなくなっても仕方ない」とする回答は、利用者アンケートでは、50人に一人程度であったもの、インターネット調査では、3人に一人程度とはるかに割合が大きくなっています。

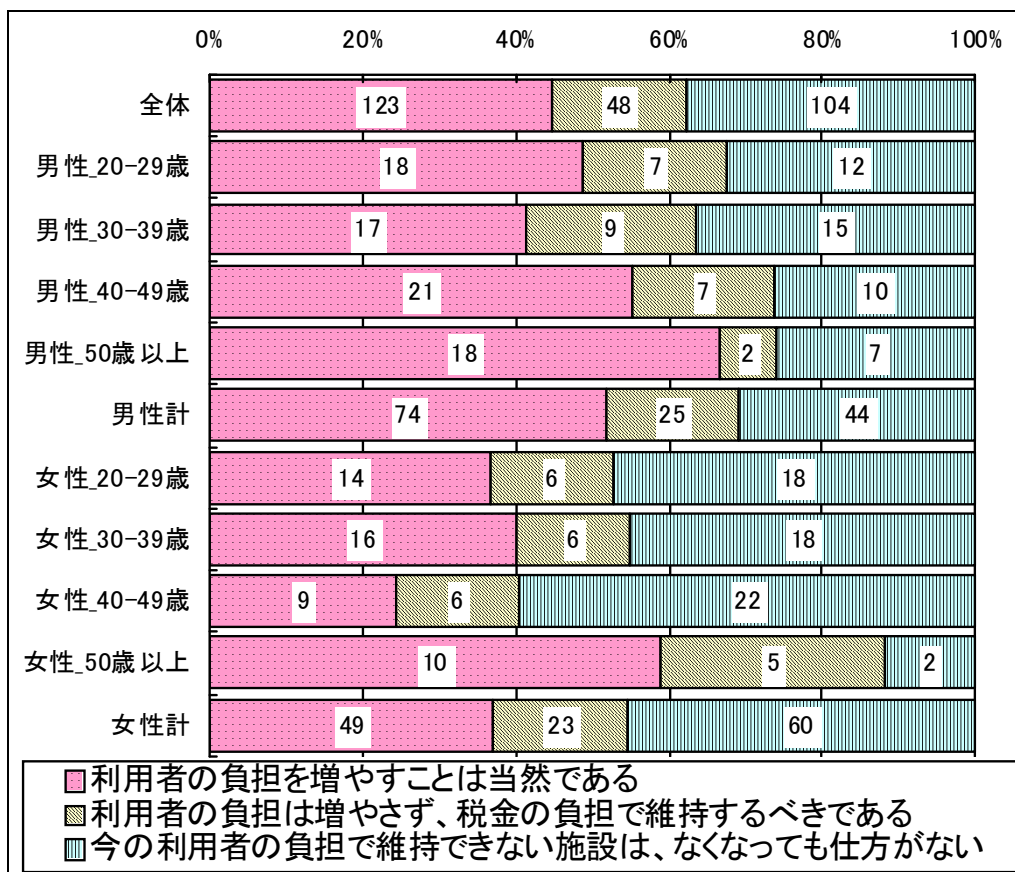
さらに、この設問のうち、「利用者負担増」、「税で維持」又は「なくなっても仕方ない」と答えた回答者について、性別及び年齢層別、未既婚、子供の有無、回答者が居住する地区並びに過去1年間の公共施設の利用頻度別にクロス集計すると、次図のとおりとなります。

男女別では、「利用者の負担を増やすことは当然」と考えるのは男性に多く、「施設がなくなっても仕方ない」と考えるのは、女性に多くなっています。

年齢層別では、「利用者の負担を増やすことは当然」と回答した者の割合が最も高くなったのは、50歳以上の男性、「税金の負担で維持」と回答した者の割合が最も高くなったのは、50歳以上の女性、「施設がなくなっても仕方ない」と回答した者の割合が最も高くなったのは、40歳の女性となりました。

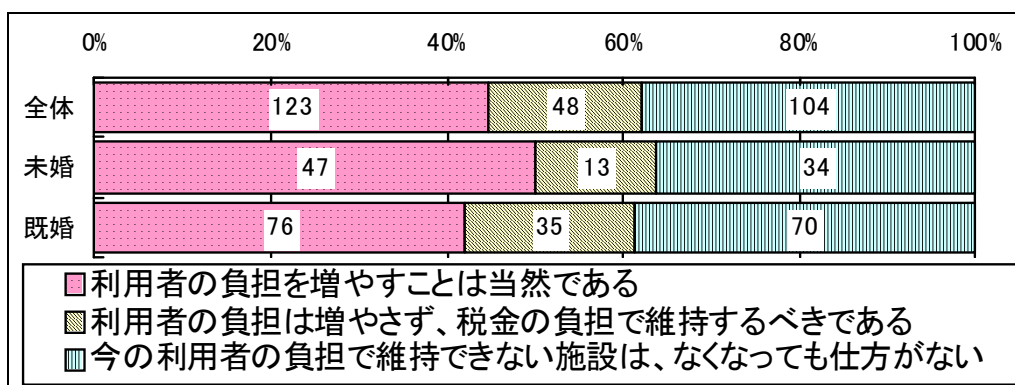
男性は、年齢層が高くなるほど、「利用者の負担を増やすことは当然」と考えるものが増える傾向があり、女性では、50歳以上では、「利用者の負担を増やすことは当然」と考えるものが増え、40歳代で「施設がなくなっても仕方ない」と考えるものが増えています。

【問7 性別・年代別】

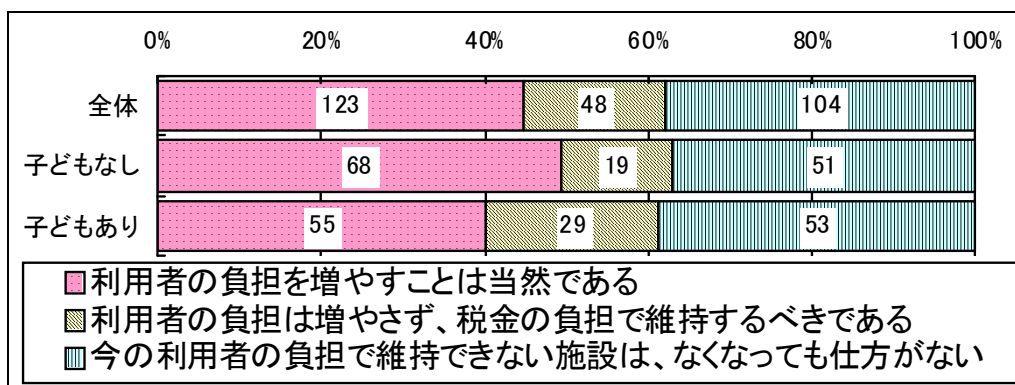


未婚、子どもの有無別では、「利用者の負担を増やすことは当然である」と考える者の割合は、それぞれ未婚者、子どもなしのほうが高くなります。

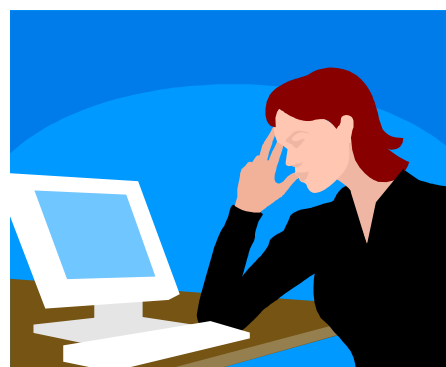
【問7 未既婚別】



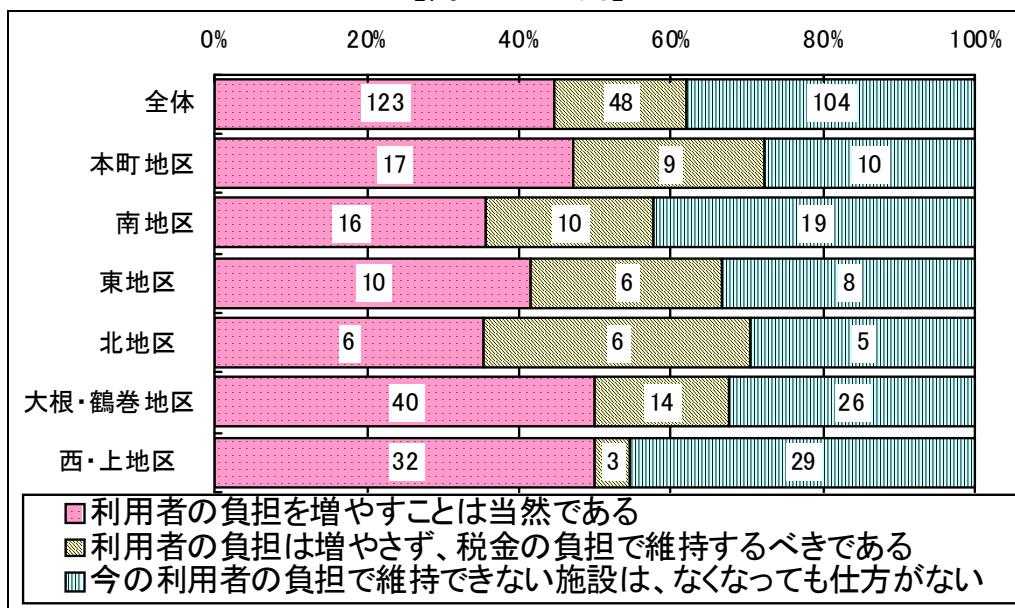
【問7 子供の有無別】



また、地区別では、「利用者の負担を増やすことは当然」と回答した者の割合が最も高くなったのは、大根・鶴巻地区と西・上地区、「税金の負担で維持」と回答した者の割合が最も高くなったのは、北地区、「施設がなくなっても仕方がない」と回答した者の割合が最も高くなったのは、西・上地区となりました。

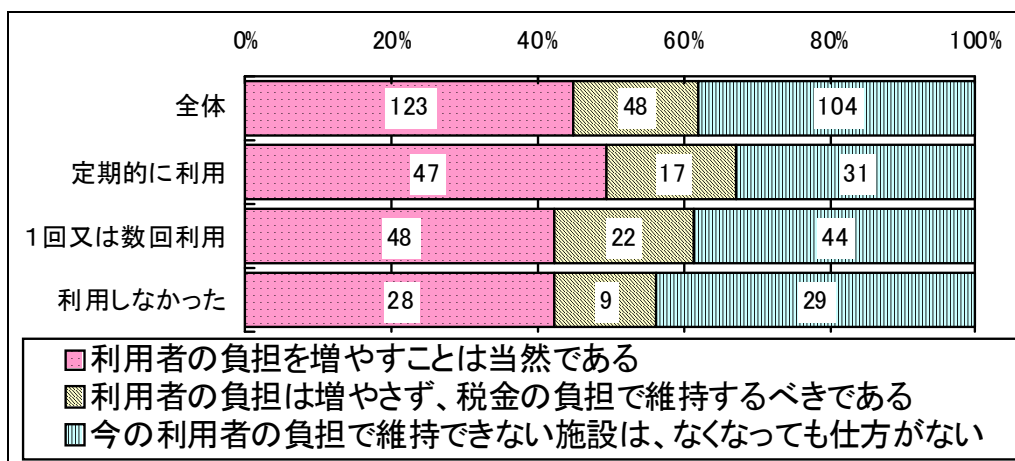


【問7 地区別】



過去1年間の利用頻度別では、「利用者の負担を増やすのは当然」とした者の割合は、「定期的に利用した」回答者のグループで高くなり、「施設がなくなっても仕方がない」とした者の割合は、利用頻度が低くなるほど、高くなっていることがわかります。

【問7 利用頻度別】



なお、その他の回答肢には、自由意見欄を設けましたが、22件の意見の記述がありました。意見の内容等は次のとおりです。

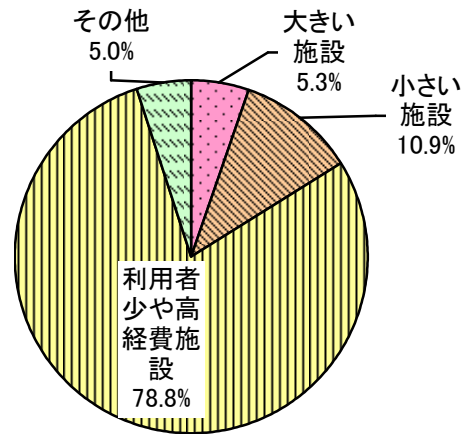


意見内容	性別	年齢
どの施設がどの程度必要とされ、負担を増やすべきか決めることだと思うので、一律にはいけない	女性	21
施設ごとに上乗せするか否かを検討すべき。	男性	29
まずは不要なものを削除して、足りなければ利用者の負担増はやむを得ないと思う。	男性	41
広告等を活用して、広告料で維持費を賄う	男性	49
利用料を負担してでも使いたいと思う施設を作るべきである	女性	40
当然とは思わないが、1でしょうか。	女性	42
個々の施設に合わせて考えるべき	女性	50
施設の維持管理をもっと実体に合った努力をすべきである。	男性	70
必要に応じて利用料を負担するのは仕方のないことだ	男性	51
利用者増や利用しやすさ・利用者増の企画を考えませんか？	女性	42
管理・運営は民間に委託し、少しでも安い維持費で運営することは当然であるが、公共施設はもともと儲かるものではないため税金の投入は当然である。	男性	67
税金が適切に使われていてなお不足を考えられるのでは、使用料に上乗せも仕方がないと思います	女性	79
ボランティアの活用等、費用の見直しを考えてほしい	女性	39
税金も市民のお金なので経営努力が最優先	女性	29
使用者の負担が増えるのは仕方がないが、住民がもっと使いやすいように宣伝したり魅力あるイベントを行ったりして集客にも力をいれてほしい	女性	30
受益者負担分の適正化	男性	62
有料化や負担増でも市民が変わらず利用するならば良いですが、使わなくなったらどっちにしる赤字？試験的に有料化など、やはり市民がからまないとわからない。	男性	36
施設によってその意味合いが違うので一律ではない。	男性	41
公共性の高いものは負担を減らし、低いものは、増やすべきである。	女性	40
負担額は、私用公用などでも分けるべき	女性	28
利用者が負担するのは構わないが、その施設で働く人などを市民から募集し選ぶことで、そのお金を市民へ戻すべき	女性	28
図書館は無料で利用を続けて欲しい	男性	28

問 8 公共施設を減らさなければならないとしたら、あなたは、どのような施設を減らすべきだと考えますか。

あなたの考えに最も近いものを一つ選んでください。

回答肢	回答者数	割合
① 市内に一つしかないような規模の大きい施設	16	5.3%
② 各地区に配置されているような規模の小さい施設	33	10.9%
③ 規模にかかわらず、利用者が少なかったり、管理運営経費が多くかかる施設	238	78.8%
④ その他	15	5.0%
合計	302	100.0%



「規模にかかわらず、利用者が少なかったり、管理運営経費が多くかかる施設」を減らすべきとする回答が、全体の8割弱を占めています。

なお、その他の回答肢には、自由意見欄を設けましたが、15件の意見の記述がありました。意見の内容等は次のとおりです。

意見内容	性別	年齢
施設使用者からアンケートを取り、施設に求めるニーズが他の民間企業の施設でも十分補填できるものを減らすべき。	男性	22
施設を減らすことより、役所の無駄を削ることが先	女性	50
用途によって違うと思う	男性	51
まずは利用者が増えない施設長の左遷と、次期施設長は参加者増が見込まれなければ左遷減給を前提に企画運営させては？	女性	42
ダブっている施設を整理する。例えば屋外プールを止め屋内プールだけにする。	男性	67
利用者の少ないもの	男性	49
野球場	男性	43
老朽化した施設、維持よりも改善してほしい	女性	39
市民へのアンケートや調査が必要。利用数が少ないのは不満か存在を知らないのか等・・・。電車の赤字路線と同じで利用客が少ないから廃止と簡単に決められると困る人は出てきませんか？	男性	36
近隣の市と共同で使えるものなどを検討、統合すべき	男性	41
利用者を限定したり、公共性に乏しい施設。	女性	40

意見内容	性別	年齢
無駄であるのはもちろんのこと、以後有効活用ができるなら、他に使ってもらえるように。	女性	28
経営努力のみられない施設	女性	27
施設を減らすのではなく、しっかりPRやメンテナンスをして、市民に有効に使ってもらおうようにすべき	女性	28
無駄に税金を使用する施設すべて	男性	25

問9 あなたは、次に名前を挙げる公共施設を知っていますか。
それぞれの施設に該当するものを一つ選んでください。

施設名	① 利用したことがある。		② 名前も場所も知っているが、利用したことはない。		③ 名前は聞いたことがあるが、場所まではわからない。		④ 名前も場所も知らない。	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
公民館	219	72.5	53	17.5	26	8.6	4	1.3
総合体育館	171	56.6	97	32.1	25	8.3	9	3.0
図書館	226	74.8	45	14.9	25	8.3	6	2.0
保健福祉センター	131	43.4	83	27.5	58	19.2	30	9.9
文化会館	226	74.8	41	13.6	19	6.3	16	5.3
おおね公園	137	45.4	74	24.5	60	19.9	31	10.3
中央運動公園	233	77.2	43	14.2	20	6.6	6	2.0
児童館	93	30.8	84	27.8	77	25.5	48	15.9
鶴巻温泉弘法の里湯	55	18.2	147	48.7	62	20.5	38	12.6
田原ふるさと公園	86	28.5	50	16.6	48	15.9	118	39.1
広畑ふれあいプラザ	20	6.6	63	20.9	72	23.8	147	48.7
サンライフ鶴巻	43	14.2	62	20.5	72	23.8	125	41.4
末広ふれあいセンター	10	3.3	36	11.9	71	23.5	185	61.3
なでしこ会館	59	19.5	82	27.2	86	28.5	75	24.8

施設名	① 利用したことがある。		② 名前も場所も知っているが、利用したことはない。		③ 名前は聞いたことがあるが、場所まではわからない。		④ 名前も場所も知らない。	
	回答者数	割合 (%)	回答者数	割合 (%)	回答者数	割合 (%)	回答者数	割合 (%)
曾屋ふれあい 会館	8	2.6	44	14.6	55	18.2	195	64.6
曲松児童 センター	12	4.0	60	19.9	42	13.9	188	62.3
桜土手古墳 展示館	121	40.1	61	20.2	40	13.2	80	26.5
表丹沢野外活動 センター	59	19.5	67	22.2	65	21.5	111	36.8
宮永岳彦 記念美術館	24	7.9	64	21.2	47	15.6	167	55.3
はだのこども館	18	6.0	43	14.2	49	16.2	192	63.6
中野健康 センター	13	4.3	46	15.2	42	13.9	201	66.6
くずはの家	47	15.6	56	18.5	77	25.5	122	40.4
里山ふれあい センター	19	6.3	45	14.9	64	21.2	174	57.6

※ 施設名の表示の順番は、平成 19 年度における利用者数(公民館(11 館)及び児童館(17 館)は、全館の合計)の多い順となっています。

各回答肢別に、回答者の割合が多い施設を集計すると次表のとおりとなります。

「利用したことがある施設」には、カルチャーパーク内の施設が並んでいます。実利用人数でも上位の施設であり、調査結果とのかい離は見られません。

「名前も場所も知っているが利用したことのない施設」には、利用者数は多いものの、趣味や嗜好に利用が左右される施設、利用者に制限がある施設が並んでいます。

「名前は聞いたことがあるが、場所まではわからない施設」には、市の事業等が頻繁に行われ、利用者数も決して少なくない施設も入っています。

「名前も場所も知らない施設」には、比較的新しい施設も含まれてしまいましたが、高齢者や児童が主な利用者となる施設が多く、回答者の属性からは、仕方のない面もあります。

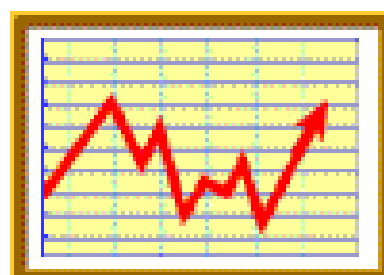


【回答肢別の上位施設】

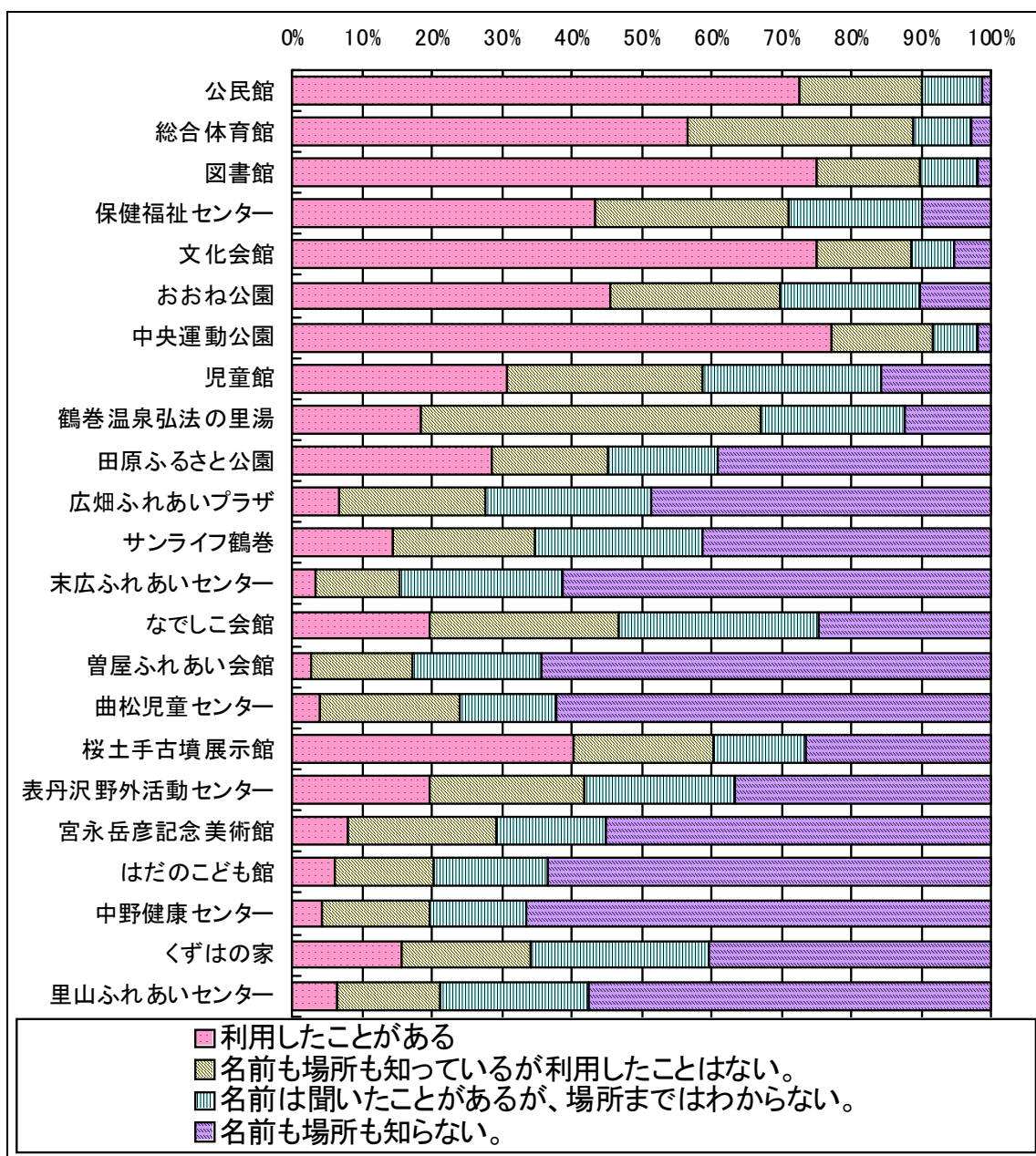
① 利用したことがある。		② 名前も場所も知っているが、利用したことはない。	
施設名	割合	施設名	割合
中央運動公園	77.2%	鶴巻温泉弘法の里湯	48.7%
図書館	74.8%	総合体育館	32.1%
文化会館	74.8%	児童館	27.8%
公民館	72.5%	保健福祉センター	27.5%
総合体育館	56.6%	なでしこ会館	27.2%
③ 名前は聞いたことがあるが、場所まではわからない。		④ 名前も場所も知らない。	
施設名	割合	施設名	割合
なでしこ会館	28.5%	中野健康センター	66.6%
児童館	25.5%	曾屋ふれあい会館	64.6%
くずはの家	25.5%	はだのこども館	63.6%
広畑ふれあいプラザ	23.8%	曲松児童センター	62.3%
サンライフ鶴巻	23.8%	末広ふれあいセンター	61.3%

また、回答内容をグラフに表すと、次図のとおりとなります。

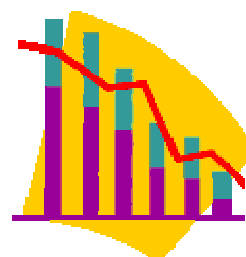
施設名は、平成 19 年度における利用者が多い順に上から並べてありますが、下の施設ほど、「名前は聞いたことがあるが、場所まではわからない。」及び「名前も場所も知らない。」とする回答者の割合が増える傾向があり、施設の知名度と利用実態とが結びついていることが良くわかります。



【問9 施設別】

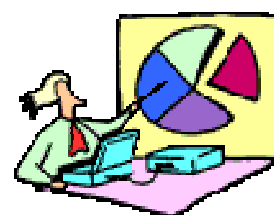


また、回答肢ごとに回答者が最も多かった施設を、性別及び年齢層別、未既婚、子供の有無、回答者が居住する地区並びに過去1年間の公共施設の利用頻度別にクロス集計すると、次表のとおりとなります。



【問9 クロス集計結果】

区分		回答肢	① 利用したことがある。	② 名前も場所も知っているが、利用したことはない。	③ 名前は聞いたことがあるが、場所まではわからない。	④ 名前も場所も知らない。
性別及び年齢層	男性 20代	図書館	鶴巻温泉 弘法の里湯	保健福祉センター	曲松児童センター	
	男性 30代	中央運動公園	鶴巻温泉 弘法の里湯	広畑ふれあいプラザ	中野健康センター	
	男性 40代	中央運動公園	鶴巻温泉弘法の里湯・総合体育館	なでしこ会館	中野健康センター・はだのこども館	
	男性 50代以上	文化会館	鶴巻温泉 弘法の里湯	なでしこ会館	中野健康センター	
	男性計	中央運動公園	鶴巻温泉 弘法の里湯	なでしこ会館	中野健康センター	
	女性 20代	図書館	鶴巻温泉 弘法の里湯	児童館	はだのこども館	
	女性 30代	中央運動公園	鶴巻温泉弘法の里湯・総合体育館	なでしこ会館	中野健康センター・曲松児童センター	
	女性 40代	文化会館	鶴巻温泉 弘法の里湯	弘法の里湯・広畑ふれあい・くずはの家	曾屋ふれあい会館	
	女性 50代以上	文化会館・図書館・公民館	鶴巻温泉弘法の里湯・広畑ふれあい	末広ふれあいセンター	中野健康センター	
	女性計	図書館	鶴巻温泉 弘法の里湯	なでしこ会館	中野健康センター	
未婚	未婚	図書館 文化会館	鶴巻温泉 弘法の里湯	保健福祉センター	中野健康・曾屋ふれあい・曲松児童	
	既婚	中央運動公園	鶴巻温泉 弘法の里湯	なでしこ会館	中野健康センター	
子ども	子どもなし	図書館	鶴巻温泉 弘法の里湯	児童館	曾屋ふれあい会館	
	子どもあり	中央運動公園	鶴巻温泉 弘法の里湯	くずはの家	中野健康センター	
利用頻度	定期的	図書館 中央運動公園	鶴巻温泉 弘法の里湯	広畑ふれあいプラザ	曾屋ふれあい会館	
	1回又は数回	文化会館	鶴巻温泉 弘法の里湯	なでしこ会館	中野健康センター	
	利用なし	中央運動公園	総合体育館	児童館	はだのこども館・中野健康センター	



質問 10 あなたが、前問で①又は②と答えた施設の中から、将来にわたり優先的に維持すべきと考える公共施設を5つ選び、優先順位を付けてください。

施設名	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
公民館	45	14.9	26	8.6	24	7.9	29	9.6	36	11.9
総合体育館	30	9.9	57	18.9	46	15.2	38	12.6	30	9.9
図書館	92	30.5	52	17.2	45	14.9	31	10.3	13	4.3
保健福祉センター	12	4.0	23	7.6	20	6.6	21	7.0	31	10.3
文化会館	40	13.2	46	15.2	51	16.9	38	12.6	17	5.6
おおね公園	24	7.9	18	6.0	20	6.6	13	4.3	20	6.6
中央運動公園	42	13.9	44	14.6	49	16.2	53	17.5	23	7.6
児童館	0	0.0	2	0.7	6	2.0	11	3.6	16	5.3
鶴巻温泉弘法の里湯	4	1.3	8	2.6	7	2.3	8	2.6	18	6.0
田原ふるさと公園	0	0.0	2	0.7	1	0.3	6	2.0	9	3.0
広畑ふれあいプラザ	1	0.3	1	0.3	1	0.3	3	1.0	1	0.3
サンライフ鶴巻	2	0.7	0	0.0	1	0.3	2	0.7	3	1.0
末広ふれあいセンター	0	0.0	1	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
なでしこ会館	0	0.0	0	0.0	2	0.7	2	0.7	5	1.7
曾屋ふれあい会館	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.7
曲松児童センター	0	0.0	1	0.3	0	0.0	0	0.0	1	0.3
桜土手古墳展示館	1	0.3	5	1.7	7	2.3	5	1.7	7	2.3
表丹沢野外活動センター	3	1.0	3	1.0	1	0.3	8	2.6	12	4.0
宮永岳彦記念美術館	0	0.0	0	0.0	1	0.3	1	0.3	4	1.3
はだのこども館	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.7	1	0.3
中野健康センター	1	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	1.0
くずはの家	0	0.0	2	0.7	0	0.0	5	1.7	5	1.7

回答肢 施設名	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
里山ふれあいセンター	0	0.0	0	0.0	1	0.3	1	0.3	2	0.7
この中にはない	5	1.7	2	0.7	6	2.0	7	2.3	17	5.6
無回答	0	0.0	9	3.0	13	4.3	18	6.0	26	8.6
合計	302	100.0	302	100.0	302	100.0	302	100.0	302	100.0

※ 前問で①又は②と答えた施設が4つ以下の場合は、その施設数までの順位付けとなり、それ以降は、「この中にはない」、「無回答」となっています。例えば、①又は②と答えた施設が2つの場合は、第3位が「この中にはない」となり、第4位と第5位が「無回答」となります。

各施設別に第1位を5点、第2位を4点…第5位を1点とし、得点を集計すると、次表のとおりとなります。

【問10 得点化】

回答肢 施設名	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位		得点合計
	回答者数	得点	回答者数	得点	回答者数	得点	回答者数	得点	回答者数	得点	
公民館	45	225	26	104	24	72	29	58	36	36	495
総合体育館	30	150	57	228	46	138	38	76	30	30	622
図書館	92	460	52	208	45	135	31	62	13	13	878
保健福祉センター	12	60	23	92	20	60	21	42	31	31	285
文化会館	40	200	46	184	51	153	38	76	17	17	630
おおね公園	24	120	18	72	20	60	13	26	20	20	298
中央運動公園	42	210	44	176	49	147	53	106	23	23	662
児童館	0	0	2	8	6	18	11	22	16	16	64
鶴巻温泉弘法の里湯	4	20	8	32	7	21	8	16	18	18	107
田原ふるさと公園	0	0	2	8	1	3	6	12	9	9	32
広畑ふれあいプラザ	1	5	1	4	1	3	3	6	1	1	19
サンライフ鶴巻	2	10	0	0	1	3	2	4	3	3	20
末広ふれあいセンター	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	4

施設名	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位		得点合計
	回答者数	得点	回答者数	得点	回答者数	得点	回答者数	得点	回答者数	得点	
なでしこ会館	0	0	0	0	2	6	2	4	5	5	15
曾屋ふれあい会館	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2
曲松児童センター	0	0	1	4	0	0	0	0	1	1	5
桜土手古墳展示館	1	5	5	20	7	21	5	10	7	7	63
表丹沢野外活動センター	3	15	3	12	1	3	8	16	12	12	58
宮永岳彦記念美術館	0	0	0	0	1	3	1	2	4	4	9
はだのこども館	0	0	0	0	0	0	2	4	1	1	5
中野健康センター	1	5	0	0	0	0	0	0	3	3	8
くずはの家	0	0	2	8	0	0	5	10	5	5	23
里山ふれあいセンター	0	0	0	0	1	3	1	2	2	2	7

得点の多かった施設と少なかった施設は、次表のとおりとなりました。

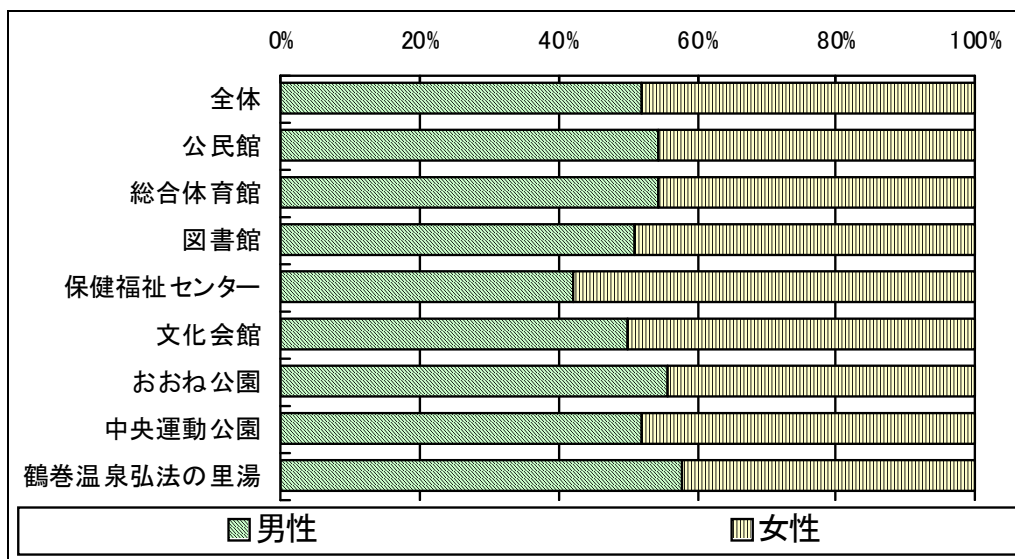
【問 10 得点上位・下位】

上位施設			下位施設		
順位	施設名	得点合計	順位	施設名	得点合計
第1位	図書館	878	第19位	里山ふれあいセンター	7
第2位	中央運動公園	662	第20位	曲松児童センター	5
第3位	文化会館	630	第21位	はだのこども館	5
第4位	総合体育館	622	第22位	末広ふれあいセンター	4
第5位	公民館	495	第23位	曾屋ふれあい会館	2

また、得点が100を超えた8施設について、第1位から第5位に掲げた人数の合計と性別及び年齢層並びに居住する地区別にクロス集計すると、次図のとおりとなります。

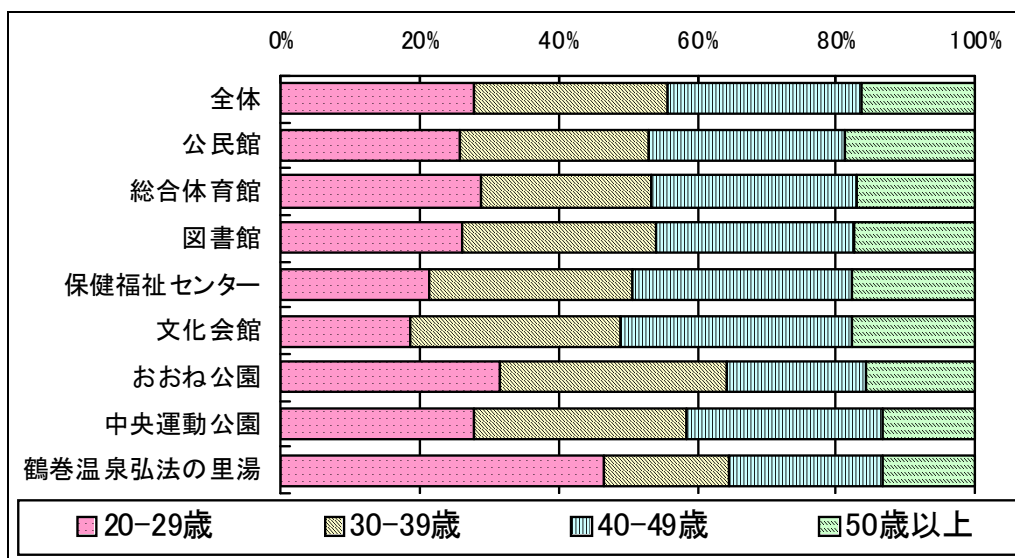
男女別では、鶴巻温泉弘法の里湯で男性回答者の割合が高く、保健福祉センターで女性回答者の割合が高いことが目立ちます。

【問10 男女別】

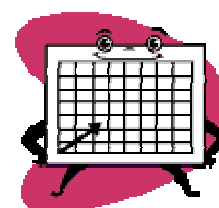


年齢層別では、全体の割合より高いことが目立つのは、20歳代では鶴巻温泉弘法の里湯、30歳代ではおおね公園、40歳代では文化会館、50歳代以上では公民館となります。

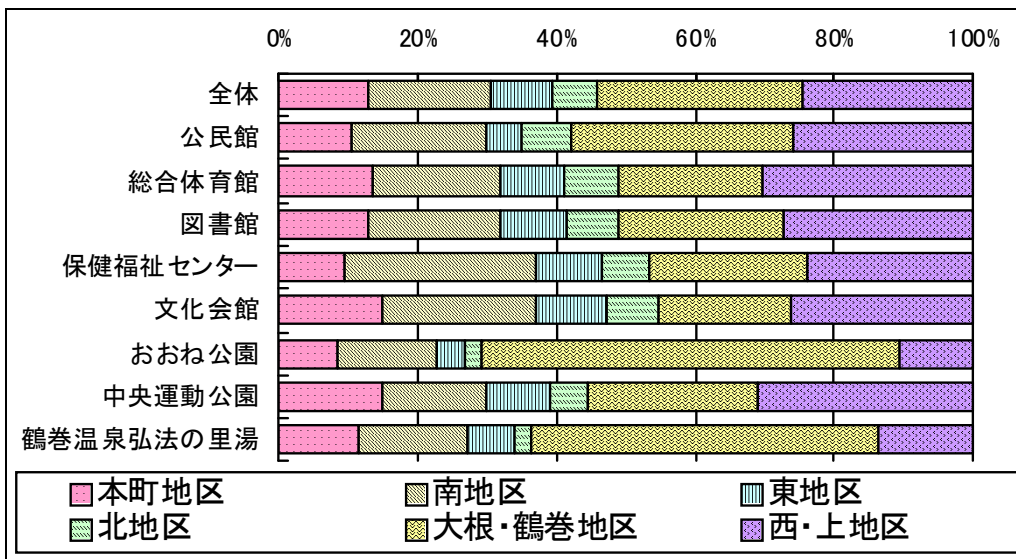
【問10 年代別】



また、地区別では、おおね公園及び弘法の里湯を除く6施設は、回答者に占める居住する地区別の割合に比較的近くなりますが、おおね公園及び弘法の里湯については、大根・鶴巻地区の居住者の割合が高くなっています。



【問10 地区別】



さらに、回答者の居住地区別に先と同様の方法により得点を集計し、順位を表すと次表のとおりとなります。

上位の施設の顔ぶれはほぼ同じですが、全市的対応施設であっても、その維持の優先度に対する考え方には、地域性が現れています。

【地区別集計結果】

地区 順位	本町地区	南地区	東地区	北地区	大根・ 鶴巻地区	西・ 上地区
第1位	図書館	図書館	図書館	図書館	おおね公園	図書館
第2位	中央運動公園	文化会館	文化会館	総合体育館	図書館	中央運動公園
第3位	文化会館	総合体育館	中央運動公園	文化会館	公民館	総合体育館
第4位	総合体育館	中央運動公園	総合体育館	中央運動公園	中央運動公園	文化会館
第5位	公民館	公民館	公民館	公民館	総合体育館	公民館
第6位	保健福祉センター	保健福祉センター	保健福祉センター	保健福祉センター	文化会館	保健福祉センター
第7位	おおね公園	おおね公園	桜土手古墳展示館	桜土手古墳展示館	保健福祉センター	おおね公園
第8位	桜土手古墳展示館	鶴巻温泉弘法の里湯	田原ふるさと公園	表丹沢野外活動センター	鶴巻温泉弘法の里湯	児童館
第9位	児童館・鶴巻温泉弘法の里湯・田原ふるさと公園	桜土手古墳展示館	おおね公園	おおね公園	児童館	表丹沢野外活動センター
第10位		児童館・表丹沢野外活動センター	弘法の里湯・サンライフ鶴巻	児童館	サンライフ鶴巻	鶴巻温泉弘法の里湯